二〇二七年度　入試向け

桃山学院中学校　プレテスト第一回　問題

国語

【五十分・百五十点】

注意事項

1　問題用紙は1ページから15ページまであります。

2　「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。

3　受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。

4　解答用紙の余白には何も記入しないでください。

5　計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。

6　「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受験番号					名前
P					

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

みなさんはこれまで生きてきて、たくさんの努力をしてきたと思います。そのなかで、①いまの自分は、自分自身がいちから作り上げてきたものだといった感覚をもっている人も少なくないでしょう。もちろん、それはそれで間違いではありません。ですが、みなさんが自分自身で作り上げてきた「自分」もまた、周囲の人たちから受けてきた影響や、ときには反発によって形成されてきたものではないでしょうか。「影響」というのはそれほど単純なものではありません。家族や友だちの影響で何かを好きになることもあれば、それに対するひそかな反発として、別のものを好きになることだってあるのです。こういってしまうと、周囲の環境によって②「型」にはめられた自分にはそもそも選択の余地がないように感じられるかもしれませんが、けっしてそうではありません。ここでわたし自身の経験をお話しします。

わたしは小さいころから音楽が好きで、テレビやラジオの音楽番組を熱心に視聴していました。中学生になると、クラシック音楽や海外の比較的（注1）マイナーなオルタナティヴ・ロック（注2）など、まわりの友だちがあまり聴いていないような音楽を進んで聴くようになります。単純にそういった音楽が自分の好みに合っていたからだともいえますが、重要なのはそこではない。おそらく、そういう「　A　」という状態が、当時の自分には心地よかった。

若いころにそういった感情に動かされるのは、けっして悪いことではなかったと思います。なぜなら、人は何らかの理由でそうした「③背伸び」をしなければ、自分が知らない、わからないものに手を伸ばそうとする機会はなかなか得られないからです。

わたしがそうした未知の音楽に手を出してみようと思ったのは、自分がそれまで聴いてきた音楽はほとんどが同じ、狭い枠のなかに収まっているように感じ、そうではないものを求めたからです。中学生のころのわたしがそれを自覚していたわけではありませんが、それなりにいろいろな音楽を聴いたり、自分でいくらか楽器を弾いたりしていたからこそ、「これじゃない何か」を求めるようになったのだと思います。つまり自由になるためには、まず④自分がどういう「型」にはまっているかを自覚することが必要だといえるでしょう。いいかえれば、それはいま自分が身をおいている世界からちょっと抜け出て、別の世界に足を踏み入れてみることです。少し大げさに聞こえるでしょうか。けれどもこの「世界」という言葉はそんなに大げさなものではありません。

ユクスキュル（注3）という生物学者がいます。彼が「環世界（Umwelt）」という言葉を使っているのですが、これは私たち人間も、動物も、昆虫も、それぞれ違う世界を生きているという考えかたです。なぜならどの生物も、備えている感覚が違うからです。この宇宙はたしかに物理的にはひとつかもしれない。でもその感じかたが違えば、それはもう別の世界である。だから私たち一人ひとりも、ふだん馴染んでいる環境の外に出れば、そこにはまったく別の世界が広がっているともいえるわけです。

自由になるにはまず「型」を身につけることが大切だといいましたが、それと同じくらい重要なことは、自分の想像を超えたものとの出会いを恐れず、新鮮な感覚で受け止めることです。

⑤わたしがはじめて（本当の意味で）美術と出会ったときの話をします。わたしがとくに自分の専門領域としているのは、二〇

世紀から現在にかけての比較的新しい美術、一般的に「現代美術」とか「現代アート」といわれるものです。

もともと、わたしは絵画や彫刻のような美術作品に興味のある人間ではまったくありませんでしたし、両親が美術教育に熱心だったわけでもありません。

そんなわたしが高校二年生のときに、はじめて美術館でやっている展覧会を見に行きました。茨城県水戸市にある、水戸芸術館で開催されていた「日本ゼロ年」という、現代アートの展覧会でした。もういまから二五、六年前、みなさんが生まれる前の一九九九年のことです。

あとから知ったことですが、この展覧会は当時まだ若手だった美術批評家・椹木野衣が企画したもので、この展覧会に出品している作家も、村上隆、会田誠、大竹伸朗といった、いまでは誰もが知る、有名な方々ばかりです。当時高校生だったわたしはそんな人たちの名前をまったく知らず、ただ当時つきあっていた恋人が見たいというので一緒について見に行きました。

そこに展示されていたのは、自分が「美術館」という言葉からイメージしていた「［B］」作品からはほど遠いものばかりでした。なかには岡本太郎、横尾忠則、東松照明といった、すでに長いキャリアをもつ作家の作品も含まれていましたが、まだ若手だった会田誠、村上隆、ヤノベケンジらの作品は、当時の現代美術の世界とは⑥縁遠かったマンガやアニメの表現技法を⑦ふんだんに盛り込んだものだったのです。それまで美術作品に抱いていたイメージとはまったく違う作品に驚きながら歩みを進めていると、今度は遠くからギターを掻き鳴らしたような轟音が響いてくる。美術館とは誰もが静かにしていなければならない空間である、そう思い込んでいたわたしには想像もつかない出来事でした。

おそるおそる音の鳴るほうへ歩みを進めてみると、そこにあったのは大竹伸朗の巨大な作品でした。といっても、当時のわたしの目からすれば、そこにあったのは「美術作品」というよりは、廃材をたくさん張り合わせたスクラップ(注4)の塊のように見えました。なおかつそのスクラップの高い位置にギターが据えつけてあって、詳しいことはわからないけれど、それが自動的に音をかき鳴らすようにプログラムされているらしい。

この展覧会に出会ったことで、「美術館＝絵画や彫刻が整然と並べられている空間」というイメージはあっという間に崩壊しました。そして、美術館という「真面目そうな」空間で、こんなめちゃくちゃなことができるという現代美術の懐の広さに自由を感じ、大きな感銘を受けました。

⑧こういった出会いを経て、大学に入った当初は文学や美術の授業ばかりを履修していました。もともとフランス語やドイツ語にも興味があったので語学の授業にも真面目に出席するようになり、やがて哲学にも興味をもちはじめいまに至るわけです。

⑨哲学も美術も、一見堅苦しいもののように思えます。哲学を学ぼうとすれば「言葉を正確に使い、厳密に考えましょう」といわれるし、美術をやろうとすれば「まずはデッサン(注5)をして、もののかたちを正確に捉えることから始めよう」といわれます。じっさい、真面目にやろうとすれば、こうした基礎的な修練はやはり必要です。しかしこうした地道な修業を経て「型」を身につけると、そのうちあっと驚くようなことができるようになります。というよりも哲学や美術においては、身につけた「型」を守りつつ

破る、あるいはずらすことこそが醍醐味であり求められていることだとも思います。

（星野太『自由のためのレッスン』）

＊　問題作成の都合上、文章を改編した箇所があります。

※（注1）マイナー＝有名でない。あまり知られていない。
（注2）オルタナティヴ・ロック＝音楽の種類の一つ。
（注3）ユクスキュル＝ドイツの生物学者・哲学者。
（注4）スクラップ＝金属製品などの切りくず。
（注5）デッサン＝鉛筆などを使って見たものを描く美術の基礎的な技法。素描ともいう。

問1　――①「いまの自分は、自分自身がいちから作り上げてきたものだといった感覚」に対する、筆者の考えについて説明した次の文の［　　］にあてはまる言葉を、本文中から五字でぬき出しなさい。

※「自分」とは、［　　］によって形成されるという考え。

問2　――②「『型』にはめられた自分」とあるが、筆者は「自由」になるためには、「型」を自覚すること以外にどのようなことが大切だと述べているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　自分の型を形成している狭い枠の存在に意識的になり、それを素直に受け入れること。
い　慣れ親しんだものを手放し、未知のものだけを積極的に追い求め、取り入れること。
う　馴染みのないものと向き合い、今まで当たり前だったことを見直してより良くすること。
え　自分の知らないものや予想外のものにも臆することなく向き合い、受け止めること。

問3　［A］にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　はやりの音楽を聴いている
い　ひたすら音楽を聴いている
う　大好きな音楽を聴いている
え　人と違う音楽を聴いている

問4　――③「背伸び」とあるが、これと同義の言葉として使われている言葉を、ここより前の本文中から六字でぬき出しなさい。

問5　――④「自分がどういう『型』にはまっているかを自覚すること」とあるが、そのために必要なのはどのようなことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　慣れ親しんだ環境から飛び出すことで、それまでの芸術へのこだわりを捨てて、新しい世界に移ること。

い　ふだん過ごしている世界の外に踏み出すことで、自分とは異なる世界や感覚を学び身につけること。

う　いつもと違う環境に身を置くことで、それまで自分に備わっていた感覚に気付き、とらえ直すこと。

え　知らない場所について想像することで、それまで自分の中に根付いていた物の見方をより深く知ること。

問6　――⑤「わたしがはじめて（本当の意味で）美術と出会った」とあるが、これは筆者にとって具体的にどういう経験か。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　堅苦しいと思っていた美術館で、マンガなどの技法や、轟音を伴う型破りな現代美術に心をゆさぶられた経験。

い　無名の作家によるアニメなどの技法を取り入れた作品に感銘を受け、作家を応援したい気持ちが芽生えた経験。

う　興味のあった美術作品とは異なる、アニメ的表現やギターを用いた作品に出会い、若いからこそ響いた経験。

え　静かな空間だと決めつけていた美術館で、大きな音が響く巨大な作品を見て驚きつつ、戸惑いを感じた経験。

問7　B　にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　奇想天外な

い　お行儀のよい

う　親しみやすい

え　創造性のある

問8　――⑥「縁遠かった」、⑦「ふんだんに」の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

⑥「縁遠かった」

あ　切り離せなかった　　**い**　結びつきがあった

う　正反対だった　　**え**　関係が薄かった

⑦「ふんだんに」

あ　ところどころ　　**い**　有り余るほど

う　まれに　　**え**　必ず

問9　――⑧「こういった出会い」とあるが、この「出会い」が筆者に与えた影響はどのようなことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　大学で美術の授業をたくさん受け、ついには現代美術や現代アートを専門に研究するようになったこと。

い　フランス語やドイツ語に対する興味がわき、大学では語学の授業に真面目に出席するようになったこと。

う　文学や美術を積極的に学んだことと、もともとあった語学への興味がしだいに哲学へと広がっていったこと。

え　美術作品への興味がより高まり、著名な作家の作品だけでなく若手の作品に対する関心も生まれたこと。

問10　――⑨「哲学も美術も、一見堅苦しいもののように思えます」とあるが、筆者は「哲学」や「美術」ではどのようなことが求められていると考えているか。次の文の□にあてはまるように、「修業」という言葉を必ず使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

※「哲学」や「美術」では、□ことが求められている。

問11　次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、正しければ「**あ**」を、間違っていれば「**い**」を書きなさい。

①　人は家族や友だちの影響を受けて何かを好きになることや、あえて別の何かを好きになることもあり、日常生活で受ける人からの影響は単純なものではない。

②　中学生のときの筆者が、様々な音楽に触れた経験を経て未知の音楽を求めたのは、狭い枠のなかに収まっていることを自覚して自分を変えようとしたからである。

③　生物学者のユクスキュルは、人間や動物、昆虫などがそれぞれ異なる世界を生きていると考えており、「環世界」という言葉を使っている。

④　美術教育に熱心な両親のもとで美術作品に囲まれて育った筆者は、幼いころから美術に対する強い興味を持っており、美術を好きになるのは時間の問題だった。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

京都で個人病院の医師をしている哲郎は、亡くなった妹の一人息子である、中学一年生の甥の龍之介と二人で暮らしている。この日、哲郎は大学病院から緊急の処置を頼まれたが、想像していたよりも重症の患者で簡単な処置ではなかった。処置を終えて帰宅した哲郎に、龍之介は声をかけた。

「だいぶ大変だったんですね」

手を洗ってリビングに戻ってきた哲郎を見て、龍之介が告げた。

「疲れが顔に出ていますよ」

「なんだ、龍之介。妙に大人びたことを言うようになったじゃないか」

「それくらいは僕だってわかります。きっととても大変な処置だったんでしょ」

龍之介はそのままキッチンに入り、置いてあったお盆の上に夕食の準備を始める。

「まあ私も大変だったが、きっと花垣[注1]さんはもっと大変だったんだろう。治療を必要としている患者がいるのに、対応できる医師がいないというのは、准教授としては相当に苦しい立場のはずだ。私に依頼してきたのは、いわば①苦肉の策というものだよ」

「大学病院ってとても大きな病院なのに、そんなに人手不足なんですか？」

「そいつは鋭い質問だが、今は現代の医師不足について語る時間じゃない。②私のご飯の支度なんてしなくていいぞ。お前のやるべきことは、家事じゃなくて宿題だ」

「ご飯って言っても、買ってきたものを並べるだけです。僕はもう食べましたし」

「そういう問題じゃない。中学一年生の子どもが、四十前のおじさんの夕食を用意するなんて、健全じゃないって話だ。それこそ花垣さんに見られたら、医局[注2]よりひどいカースト制度だって批難される」

「別に言いつけたりしませんよ」

笑いながら龍之介が持って来たお盆には、ご飯と味噌汁と野菜炒めが揃っている。哲郎が一人暮らしをしていたときの何百倍も豊かでバランスの取れた夕食だ。

おまけにお盆の片隅に目を向けて、哲郎はにわかに頬を緩めた。好物の阿闍梨餅がひとつ、載っていたからだ。

「気が利くじゃないか」

嬉しそうに哲郎が手を伸ばしたが、一瞬早く龍之介が餅菓子の包みをひょいと持ち上げてお盆の外に移動させた。

「晩ご飯が終わってからです」

「厳しい奴だなぁ」

不満の声をあげつつも、少年の遠慮のない反応に、③哲郎は腹の底が温かくなる。

京都に来た当初の小学四年生の龍之介は、一日中ほとんど口をきかず、部屋の中には重い沈黙が立ちこめていた。もちろん声をかければ応答はあるが、気が付けば一人で空を見つめているような少年であった。ちょうど年末も押し迫った時期でもあり、息苦しい沈黙に、盆地の寒気がくわわって、いつにも増して厳しい冬に感じられたものである。

それから数年を経て、今ではこんな遠慮のない顔を見せてくれる。もちろん保護者に向かって「マチ先生」と呼びかけることが健全であるかどうかは議論の余地はあるが、かつての沈鬱な空気を思えば些末な問題であろう。

④――急ぐことは何もない。

それが哲郎の率直な思いなのである。

箸を手に取りながら、哲郎は玄関の方へと目を向けた。

「それにしても花垣さんが自分で蜜柑箱を運んでくるなんて。また厄介な患者を押しつけるつもりかな」

「あんまりひねくれたことばっかり言ってたら駄目ですよ、せっかく持って来てくれたのに」

花垣の自宅は哲郎のアパートから二百メートルほど北へのぼった仁王門通沿いにある。近所といえば近所だが、洛都大学の准教授が、手ずから重たい蜜柑箱を運んでくるというのは、なかなかの奇景だろう。

「花垣さんはなにか言ってなかった？」

「実家から送ってもらった蜜柑だから、品質は保証するって」

「それだけ？」

「あと、今週金曜日の研究会には必ず出席するようにって」

「そっちが本題だな」

哲郎はすぐ横の壁のカレンダーを見上げた。

十一月半ばの金曜日に印がつけてあるのは、すでに葉書は来ているからだ。若手の消化器内科医たちが集まる小さな研究会だがレベルは高い。そこで討論をまとめるオブザーバーを頼まれているのである。

やれやれ、とため息をついたところで、哲郎はカレンダーのすぐ下の棚に、文庫本が二冊置いてあるのに気が付いた。岩波文庫のそれは、ずいぶん古く、表紙はいくらか黄ばんでいる。哲郎は野菜炒めを咀嚼しながら、腕を伸ばして本を取り上げた。【あ】

「お前、本当にスピノザの『エチカ』を読んでいるのか？」

龍之介は、玄関から蜜柑を持ってきて、向かい側に座ったところだ。

「すごい難しいです。もう何か月も、ずっと借りっぱなしだけど」

「それは構わないさ、しかしこの難物を挫折せずに読み続けているとはね」

「もう少しで読み終わるところです」

「そいつはすごいな。どうだい、面白いかい？」

龍之介は、蜜柑を片手に困惑顔を見せた。

「全然、意味がわからない」

気負いのない感想に、哲郎は肩を揺らして笑った。

「それでいいんだよ」

「それでいい？」

「⑤大切なことは、最後まで読んでみることだ。途中でやめたりせず、要約やあらすじにも頼らず、自分の目でその難しい文字を最後まで追いかけること」

哲郎は我知らず、懐かしげに岩波文庫に目を細める。

学生時代に読んだ本であるから、二十年近く前に買ったものである。上巻よりも薄い下巻には、鉛筆やボールペンでやみくもに書き込みが入っている。【い】

「もちろん読書にも色々な方法論がある。ただ情報を拾い上げるだけなら、斜め読みでいいし、面白くなければ途中でやめたっていい。医学論文なんかは、私もそうやって読むし、最近じゃ読み

上げてくれるアプリもある。だけど、世の中にはそうでない本というものもある」

雑談めいた軽い口調に、しかし龍之介はまっすぐな目を向けている。【う】

「たとえば『エチカ』はそのひとつだ。スピノザの世界を理解するには、この手強い本を少しずつでも咀嚼して、とにかく最後まで読んでみるしかない。途中で投げ出さず、忍耐強く取り組んで、最後の一行まで辿っていく。一度でもそういう経験をした本は、今は意味がわからなくとも、ある日突然お前の頭の中に戻ってきて、色々なことを教えてくれる。こいつはね、難しい本を最後まで読んだ者にだけ与えられる特権だ」

「今は全然理解できなくても、意味がある？」

「あるよ、保証する」

【え】味噌汁の椀を手に取りながら、哲郎はさらに語を継ぐ。

「本当に複雑な物事を理解するには、時間が必要なんだ。読んだ瞬間に理解したと感じたなら、それはもともとわかっていることを確認しただけの作業さ。大切な事柄は、あとからお前の人生に追いついてくる。それが難しい本を読むときの面白さだと言ってもいい。スピノザに限らない。サルトルも、ドストエフスキーも、西田幾多郎も、皆そうだった。そこに何が書いてあったのかに気づいたのは、読み終えてからずいぶんあとのことだよ」

「阿闍梨餅はご飯が終わってからだって言いましたよ」

遮るように龍之介が告げたのは、哲郎の手がこそこそと銘菓に伸びていたからだ。少年はめざとく察して餅菓子を遠ざける。哲郎は遠ざかる好物を悲しそうに眺めながら、

「まあ、色んな本にチャレンジすることはいい。ただ、知識や思想に飲まれすぎてはいけないよ。最後にお前を支えてくれるのは、書物の言葉じゃない。お前が直接経験したことや、実際に出会った人の言葉なんだから」

⑥龍之介は、大きくうなずいた。

現実に多くの人と向き合い、そして命を見送ってきた伯父であるからこその言葉だと思うのである。

龍之介にとって、目の前の伯父はひどく風変わりな人物だ。優しく大らかに見えることもあれば、ぼんやりとして頼りなく見えることもある。遠くに目を向けている分だけ、足下が見えていないことは確かなようで、食生活はもとより掃除や洗濯といった一般的な家事については、中学一年生の目から見ても、まったくいい加減なものなのだ。

けれども夜の突然の呼び出しに慌てて飛び出して行く姿や、深夜の書斎でまるで祈るように目を閉じて動かない伯父の姿を、幾度か目にしている。そして時々、本棚から古い本を取り出して、何かを探すようにじっと見つめている姿も――。

今は何もわからなくても、少しでも伯父の見ている世界に近づきたい。そんな思いが、少年の胸の内にある。

「そういえば」と哲郎は椀を置きながら語調を転じた。

「学校の方はどうだ？　部活はがんばってるのか？」

「楽しいですよ。凄く厳しいわけでもなくて、先輩たちも優しいし」

「ブラスバンド部だったな」

言った途端に、哲郎は首を傾げて、

「楽器はなんだっけ？」

⑦わかっているようで、わかっていない。こういうところが伯

父らしいと、龍之介はおかしみをこらえながら応じる。
「フルートです。音楽室にある楽器を借りて練習しています。だいぶ古いものですけど」
「続けるつもりなら、いい楽器を買えばいいじゃないか」
「そりゃ、そうだけど……」
龍之介は顔を曇らせる。
「フルートってすごく高いですよ」
「どれくらい？」
「値段だけなら安いものもあるけど、ある程度しっかりした楽器なら十万円くらいは普通にします。少しいいものを選べば、すぐその倍くらいになるし」
「あのなぁ龍之介」
哲郎は野菜炒めを頬張ったまま、あからさまに呆れ顔になった。
「お前の前に座っているのは、まもなく四十歳にならんとする大の大人なんだぞ。その金額が安いとは言わないが、しかし大事な甥に――それもたいしてわがままも言わない出来のいい甥に、楽器のひとつも買ってやれないほど、生活に不自由はしていないつもりだ」
「じゃあ、買ってくれる？」
「当たり前だ」
勢いよく応じてから、哲郎は存外(注12)に真面目な顔で続けた。
「いいかい、龍之介。お前は私の家族だ。今さらお父さんと呼んでくれとは言わないが、親代わりの大人に向かって、無闇に気を遣うものじゃない。私はお前が我が家に来てくれたことを、本当に幸せなことだと思っているんだよ」
「でも僕のせいで大学病院を辞めないといけなくなったじゃないですか。もしマチ先生が大学に残っていれば……」
龍之介の声が途中で途切れたのは、哲郎が食卓越しに手を伸ばして、少年の髪をくしゃくしゃと掻き回したからだ。
「⑧中一の坊やが何をくだらないことを言ってやがる」
呆れ顔に柔らかな笑みが混じっている。
「人生の面白さってものは、出世や月給にあるんじゃない。お前が思っているよりずっと複雑で意外性に溢れているんだ。お前がやるべきことは、伯父の肩書きを案ずることじゃなくて、欲しい物を欲しいとちゃんと口に出して言うことだ」
「じゃあ、フルートが欲しい」
「よろしい。それでこそ、我が愛すべき家族だ。今すぐというわけにはいかないが、近いうちにいい楽器を手に入れようじゃないか」
無意味に(注13)傲然たる物言いに、龍之介は小さく吹き出した。大げさな言い回しがおかしかったせいもあるが、同時にそれは、気恥ずかしさの裏返しであったかもしれない。
「さて、早く晩ご飯を終わらせないといけないな」
哲郎は味噌汁をかき込みつつ、
「なにせデザートの阿闍梨餅が待っている」
「蜜柑も、ですよ」
「そりゃ、豪勢だ」
伯父と甥は、今度は声を合わせて笑いあった。

（夏川草介『エピクロスの処方箋』）

＊　問題作成の都合上、文章を改編した箇所があります。

※（注1）花垣さん＝洛都大学病院の准教授。准教授は日本の大学で、教授に次ぐ役職。
（注2）医局よりひどいカースト制度＝ここでは大学病院の組織よりもひどい身分制度ということ。
（注3）マチ先生＝哲郎のあだ名。
（注4）沈鬱＝重く気分が沈んだような様子。
（注5）些末な＝小さな、ささいな。
（注6）手ずから＝自分の手で。
（注7）奇景＝奇妙な景色。
（注8）オブザーバー＝会議などに客観的な視点で立ち会い、公正な進行をうながす人。
（注9）咀嚼＝かみ砕く。
（注10）スピノザ＝オランダの哲学者。
（注11）斜め読み＝部分的に飛ばしながら、全体を大まかに読むこと。
（注12）存外＝思いのほか。
（注13）傲然たる＝尊大な。おごり高ぶった。

問1　――①「苦肉の策」の本文中での意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　誰もが望む方法
い　批判される方法
う　やむを得ない方法
え　一番よくない方法

問2　――②「私のご飯の支度なんてしなくていいぞ」とあるが、このときの哲郎の気持ちとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　哲郎のために家事をする時間があるならば、宿題を忘れずにやってほしいと腹を立てる気持ち。
い　龍之介には家事よりも宿題を優先するような、中学生らしい生活を送ってほしいと願う気持ち。
う　中学生に夕食の支度をさせる不健全な状態を、花垣さんに知られまいとしてあせる気持ち。
え　中学生の龍之介が哲郎よりもバランスの取れた夕食を作るので、自分の身を恥じる気持ち。

問3　――③「哲郎は腹の底が温かくなる」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　暗くふさぎこんでいた龍之介が、遠慮のない発言をするまでに変化したことに喜びを感じたから。

い　お菓子を食べるタイミングを注意する龍之介の頑固な性格に、多少の歯がゆさを感じたから。

う　自分に対して気がねなく率直に話す龍之介の態度から本当の親子になれたと確信し、幸せを感じたから。

え　好物を準備してくれる龍之介の心遣いを喜びつつも、子どもらしくない態度に不満を感じたから。

問4　――④「――急ぐことは何もない」とあるが、哲郎がこのように思った理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　本心では龍之介からお父さんと呼ばれたいが、あせるのはよくないとわかっていたから。

い　龍之介が自分に心を開いたことを日々実感しており、気がかりもまったくないから。

う　今でも龍之介との間には問題が残っているが、これ以上仲良くなるのは難しいから。

え　暮らし始めたばかりのころと比べ、今の時点での龍之介との関係に満足していたから。

問5　本文から、次の一文がぬけ落ちている。本文中にある**【あ】**～**【え】**のうち、戻す場所として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

だから哲郎は岩波文庫を食卓に置いて、話を続ける。

問6　――⑤「大切なことは、最後まで読んでみることだ」とあるが、哲郎がこのように言うのはなぜか。その理由について説明した次の文の［　　］にあてはまる言葉を、本文中から十二字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※今は難しく感じても、最後まで読んだ本の内容は［　　］ものだと哲郎は考えているから。

問7　――⑥「龍之介は、大きくうなずいた」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　本当の父親のように話す伯父の言葉には、書物から得られる知識に似た、説得力があると感じているから。

い　伯父の言葉によって、書物からの知識を求めすぎたことを恥じ、素直に反省しようと感じているから。

う　伯父の言葉は難しく今はまだ理解できないが、とりあえず分かったふりをしておこうと感じているから。

え　豊かな人生経験に基づいた伯父の言葉に深く共感し、いつか伯父の境地に近づきたいと感じているから。

問8　――⑦「わかっているようで、わかっていない」とあるが、このような哲郎に対する龍之介の思いとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　医師であり世の中を見通したような伯父の、人間味のある一面をあらためて実感し、親しみを感じている。

い　伯父はいつも優しく大らかだが、日常生活については無関心で不器用なところがあるのを不満に感じている。

う　部活動で自分のフルートがなく、なやんでいることに伯父が気づいてくれないので、さみしく思っている。

え　立派な職を持ち、人生における助言もしてくれる伯父だが、実際はとても頼りないので不安に思っている。

問9　――⑧「中一の坊やが何をくだらないことを言ってやがる」とあるが、このときの哲郎の気持ちとして**あてはまらないもの**を後から一つ選び、記号で答えなさい。

あ　龍之介をひきとったことで大学病院を辞めたことを龍之介には気にしてほしくないという気持ち。

い　中学生でありながら哲郎の状況を案じてくれる龍之介の優しさをうれしく思う気持ち。

う　大学病院に残りたいと思っていた自分の本心を子どもに見ぬかれていたことにいら立つ気持ち。

え　伯父のお金や肩書きは気にせずに、中学生らしく素直に自分の望みを伝えてほしいという気持ち。

問10　本文中で描かれている哲郎の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ　多忙な中、仕事よりも甥のことを最優先に考えた今の生活に満足しており、何不自由のない生活をさせて甘やかし、惜しみない愛情を注ぐ心の広い人物。

い　仕事上は経験豊富で、本質を見通す目を持っているが、伯父への感謝の気持ちから積極的に家事をしたり我慢をしたりする甥に日々甘えている子どもっぽい人物。

う　中学生ながら分別をわきまえた龍之介に対しても、親代わりとして甥が立派な大人になるように、日々厳しく教え導こうと努力する、正義感の強い人物。

え　医者の仕事で忙しいが、賢く素直な甥との暮らしに喜びを感じており、保護者として龍之介を見守り導こうとする責任感とユーモアを持ち合わせた人物。

問11　あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合った。次に示すのは、本文に登場する哲郎と龍之介について話し合っている生徒たちの様子である。本文の内容をふまえて、［X］・［Y］・［Z］にあてはまる言葉として最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

Aさん　龍之介に「今さらお父さんと呼んでくれとは言わない」と言っている哲郎は、龍之介が来てくれたことで［X］と思っているんじゃないかな。だから彼にも、子どもらしく、自分に遠慮しないでほしいと思っているんだと思う。親心に似た気持ちが読み取れて、哲郎の優しさを感じる場面だと思ったよ。

Bさん　そうだね。それに対して、龍之介は伯父の仕事を心配したり料理の準備をしたりする、中学生らしくない大人びた人物として描(えが)かれているよね。

Cさん　確かにそうだね。それに、龍之介の視点で書かれた部分に着目すると、龍之介が［Y］という描写(びょうしゃ)から、龍之介は哲郎としっかり向き合ってきたことがわかるよね。そうでなければ、彼が哲郎の二面性に気づくことはなかっただろうからね。私はこの部分から、龍之介が親の代わりとして哲郎を慕(した)っているのだと感じ、とても親近感がわいたよ。

Dさん　私は、「伯父と甥は、今度は声を合わせて笑いあった。」という最後の一文に「今度は」とあることに着目したよ。この笑いが直前の哲郎と龍之介のそれぞれの笑いをふまえているとすれば、二人が声を合わせて笑っている様子から、［Z］二人の姿を読み取ることができるのではないかな。

Xの選択肢(せんたくし)

あ　毎日楽しいが、経済的には大変になった
い　思いがけなく豊かで幸せな人生になった
う　自分自身がより成長しなければならない
え　自分の苦手な家事をしてくれてありがたい

Yの選択肢

あ　哲郎のだめなところをあげつらって非難している
い　哲郎にとっての荷物となっていないことに安心している
う　哲郎の頼りない部分と尊敬できる部分を理解している
え　哲郎と分かり合うことができないと落ち込んでいる

Zの選択肢

あ　過去を忘れる決心がつき、笑い合える仲になった
い　本音でぶつかりあったことで、ようやく和解した
う　共通の話題で盛り上がり、笑いのつぼをわかり合えた
え　お互(たが)いの気持ちが通じ合い、距離(きょり)が縮まった

三　次の各問いに答えなさい。

問1　次の――線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

① サービスの質をカイゼンする。
② 先生のキョカを得る。
③ 友人からの消息がタえる。
④ 市内の世帯数を調査する。
⑤ 児童会長選挙の候補者になる。
⑥ 人通りの多い場所に店を構える。

問2　次の各語が対義語（意味が反対の言葉）の組み合わせになるように、□に入る漢字一字を書きなさい。

① 子孫 ↕ 先□
② 全体 ↕ □分
③ 差別 ↕ 平□
④ 生産 ↕ 消□

四　次の各問いに答えなさい。

問1　□にあてはまる体の一部を表す漢字を書き、語句を完成させなさい。また、その意味として最も適切なものを後からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① □もとを見る
② □も当てられない

あ 予想外のことに、全く信じられないことのたとえ。
い 相手の出方を身がまえて待っていることのたとえ。
う 十分に注意して、しっかり判断することのたとえ。
え あまりにひどいので見ていられないことのたとえ。
お はずかしさのあまり全てを投げ出すことのたとえ。
か 人の弱いところを見ぬいてつけ入ることのたとえ。

問2　次の1～5の四字熟語の中で、誤った字をふくむものの組み合わせとして適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

1　異句同音　　2　臨機応変　　3　有名無実
4　晴耕雨独　　5　完全無欠

あ 1と2　　**い** 2と3　　**う** 3と4
え 4と5　　**お** 1と4　　**か** 2と5

問3　次の文中の［　　］にあてはまる言葉として最も適切なものを後からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 彼が欠席なのは、急用があったのだろう。［　　］、体調をくずしたのかもしれない。

② 昨日は畑の土をたがやした。［　　］、今日は苗を植えるところまでやる予定だ。

③ 毎年、この時期は晴天が続くことが多い。［　　］、今年は雨続きだ。

④ 幼稚園児の弟は最寄り駅まで散歩をしたがる。［　　］、電車を見るのが大好きだからだ。

あ　つまり　　**い**　あるいは　　**う**　なぜなら

え　そこで　　**お**　けれども

問4　次の①～⑤の各文について、文法や言葉の使い方が正しければ「**あ**」を、間違っていれば「**い**」を書きなさい。

① 来年はもしかしたら試験に合格するにちがいない。

② いつか実現したい夢は、外国で生活することです。

③ うそも方便で、彼のために真相は告げないことにした。

④ たとえ明日の試合に負けたら、ぼくは辞めたりしない。

⑤ 私と兄は瓜二つな兄弟で、似ていないとよく言われる。

以上で問題は終わりです。

二〇二七年度　入試向け

桃山学院中学校　プレテスト第一回

国語　解答用紙

202710010

受験番号					名前
P					
	⓪	⓪	⓪	⓪	
	①	①	①	①	
	②	②	②	②	
	③	③	③	③	
	④	④	④	④	
	⑤	⑤	⑤	⑤	
	⑥	⑥	⑥	⑥	
	⑦	⑦	⑦	⑦	
	⑧	⑧	⑧	⑧	
	⑨	⑨	⑨	⑨	

一

問11	問10			問8	問7	問5	問4	問2	問1
①				⑥					
②				⑦		問6		問3	
③				問9					
④									
	30		20						

二

問11			問9	問7	問6	問5	問3	問1
Z	Y	X						
			問10	問8			問4	問2

三

問2		問1					
③	①	⑥	⑤	④	③	②	①
④	②						
		える			える		

四

問4		問3		問2	問1	
④	①	③	①		②	①
					漢字	漢字
⑤	②	④	②			
					記号	記号
	③					

2027年度　入試向け

桃山学院中学校　プレテスト第1回　問題

算　数

【50分・150点】

注　意　事　項

1　問題は1ページから5ページまであります。

2　解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

3　円周率は，3.14とします。

4　「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。

5　受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。

6　計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。

7　「終了」の合図で鉛筆を置き，監督の先生の指示に従いなさい。

受　験　番　号					名　　前
P					

1 次の □ にあてはまる数を答えなさい。

(1) $43+(29\times7-5)\div11=$ □

(2) $2.1\div1.25-1.6\div1.25=$ □

(3) $\left(\frac{1}{2}+\frac{2}{3}\times\square\right)\div\frac{3}{4}+\frac{7}{9}=1\frac{2}{3}$

(4) $(2.3\text{L}+40\text{dL})\div90\text{mL}=$ □

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次のように，5 の倍数ではない奇数が並んでいます。123 は左から何番目にありますか。

1，3，7，9，11，13，17，19，…

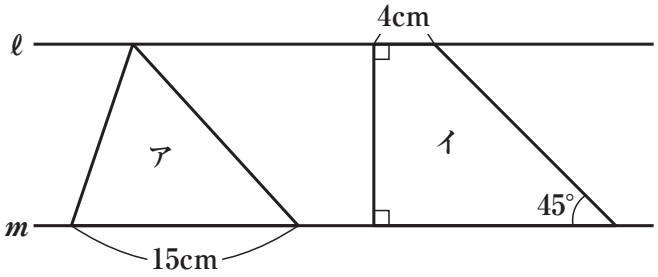
(2) 1 個の重さが 450g のハンドボールと 1 個の重さが 600g のバスケットボールが合わせて 20 個あり，重さの合計は 9.9kg です。ハンドボールは何個ありますか。

(3) ある年の M 中学校の入学試験の合格者数は受験者数の 55%より 3 人多く，不合格者は受験者数の 40%より 24 人多い人数でした。この年の受験者数は何人ですか。

(4) 100 円玉と 50 円玉と 10 円玉がたくさんあります。このとき，200 円のしはらい方は何通りありますか。ただし，使わない種類があってもよいとします。

(5) ある分数を$\frac{9}{35}$でわっても$\frac{6}{25}$でわっても商が整数になります。ある分数のうち，もっとも小さい分数は何ですか。

(6) 右の図で，直線 ℓ と直線 m は平行で，アの面積は 90cm^2 です。イの面積は何 cm^2 ですか。



3 ある店では商品1個に1枚のシールがついていて，シール5枚を同じ商品1個と交かんしてくれます。この商品1個の代金は100円で，交かんしてくれる商品にもシールが1枚ついています。このとき，次の問いに答えなさい。

(1) 1300円で最大で何個の商品をもらえますか。

(2) 51個の商品をできるだけ少ない金額で手に入れるとき，何円あればよいですか。

4 1つの円があります。ここに直線を1本引くと，図1のように，円を2つの部分に分けることができます。直線を2本引くと，図2のように，円を最大で4つの部分に分けることができます。直線を3本引くと，図3のように，円を最大で7つの部分に分けることができます。このように，円をできるだけ多くの部分に分けるように直線を引いていきます。このとき，次の問いに答えなさい。

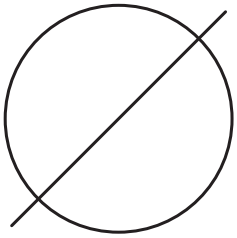


図1

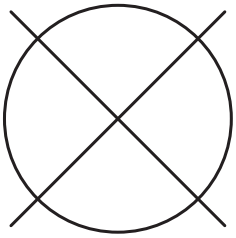


図2

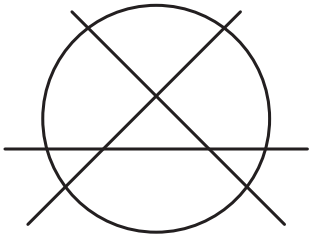


図3

…

(1) 解答用紙の図に，さらに直線を1本引いて，できるだけ多くの部分に分けなさい。ただし，定規は使わないこと。

(2) 直線を5本引いたとき，いくつの部分に分かれますか。

(3) 分かれた部分の数が50以上になるのは，直線を何本以上引いたときですか。

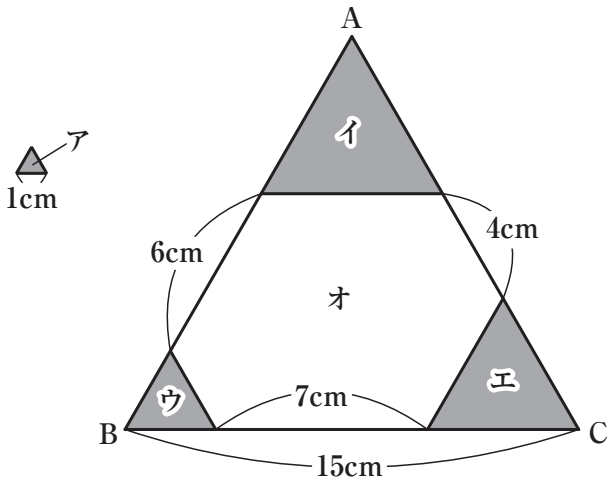
5 桃子さんは，午前 7 時 50 分に家を出て自転車に乗って分速 200m で駅に行くと，乗る予定の電車の発車時刻の 5 分前に駅に着きます。また，午前 7 時 35 分に家を出て分速 80m で歩いて駅に行くと，乗る予定の電車の発車時刻の 2 分前に駅に着きます。このとき，次の問いに答えなさい。

(1) 桃子さんが家から駅まで歩いて行くと，自転車で行くより何分多くかかりますか。

(2) 桃子さんの家から駅までの道のりは何 m ですか。

(3) 乗る予定の電車の発車時刻は午前何時何分ですか。

6 次の図の三角形 ABC とア，イ，ウ，エはすべて正三角形です。このとき，次の問いに答えなさい。



(1) 三角形イ，ウ，エの 1 辺の長さの合計は何 cm ですか。

(2) 三角形イの 1 辺の長さは何 cm ですか。

(3) 六角形オの面積は三角形アの面積の何倍ですか。

以上で問題は終わりです。

202710030

受験番号					名前
P					
	⓪	⓪	⓪	⓪	
	①	①	①	①	
	②	②	②	②	
	③	③	③	③	
	④	④	④	④	
	⑤	⑤	⑤	⑤	
	⑥	⑥	⑥	⑥	
	⑦	⑦	⑦	⑦	
	⑧	⑧	⑧	⑧	
	⑨	⑨	⑨	⑨	

2027年度　入試向け

桃山学院中学校　プレテスト第1回
算数　解答用紙

1

(1)		(2)		(3)		(4)	

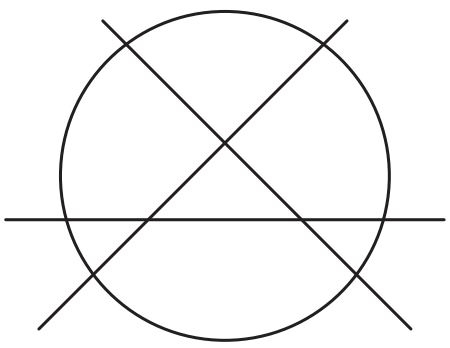
2

(1)	番目	(2)	個
(3)	人	(4)	通り
(5)		(6)	cm^2

3

(1)	個	(2)	円

4

(1)		(2)	
		(3)	本

5

(1)	分	(2)	m
(3)	午前　　時　　分		

6

(1)	cm	(2)	cm
(3)	倍		

合　計
※

2027年度　入試向け

桃山学院中学校　プレテスト第1回

解答と配点

目　　次

解　答

1　国 語（50分・150点）…… P. 1

2　算 数（50分・150点）…… P. 1

配　点 …… P. 2

解　答

国　語

一　問1　周囲の環境　　問2　**え**　　問3　**え**　　問4　ひそかな反発
問5　**う**　　問6　**あ**　　問7　**い**　　問8　⑥　**え**　⑦　**い**　　問9　**う**
問10　（例）地道な修業を経て身につけた「型」を守りつつ、破り、ずらす［28字］
問11　①　**あ**　②　**い**　③　**あ**　④　**い**

二　問1　**う**　　問2　**い**　　問3　**あ**　　問4　**え**　　問5　**う**
問6　色々なこと　　問7　**え**　　問8　**あ**　　問9　**う**　　問10　**え**
問11　X　**い**　　Y　**う**　　Z　**え**

三　問1　①　改善　　②　許可　　③　絶（える）
④　せたい　　⑤　こうほ　　⑥　かま（える）
問2　①　祖　②　部　③　等　④　費

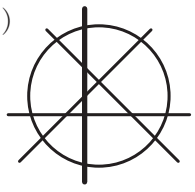
四　問1　①　足・**か**　②　目・**え**　　問2　**お**
問3　①　**い**　②　**え**　③　**お**　④　**う**
問4　①　**い**　②　**あ**　③　**あ**　④　**い**　⑤　**い**

算　数

1　(1)　61　　(2)　0.4　　(3)　$\frac{1}{4}$　　(4)　70

2　(1)　50番目　　(2)　14個　　(3)　540人　　(4)　9通り　　(5)　$\frac{18}{5}$　　(6)　120cm^2

3　(1)　16個　　(2)　4100円

4　（例）
(1)　
(2)　16　　(3)　10本

5　(1)　18分　　(2)　2400m　　(3)　午前8時7分

6　(1)　14cm　　(2)　6cm　　(3)　155倍

配　　点

国　語

一　問 1…4 点　問 2…4 点　問 3…4 点
問 4…4 点　問 5…4 点　問 6…4 点
問 7…4 点　問 8…各 2 点　問 9…4 点
問 10…10 点　問 11…各 2 点　合計 54 点

二　問 1…4 点　問 2…4 点　問 3…4 点
問 4…4 点　問 5…4 点　問 6…4 点
問 7…4 点　問 8…4 点　問 9…4 点
問 10…4 点　問 11…各 4 点　合計 52 点

三　各 2 点　合計 20 点

四　各 2 点（問 1 各完答）　合計 24 点

算　数

1　各 8 点　合計 32 点
2　各 8 点　合計 48 点
3　各 8 点　合計 16 点
4　各 6 点　合計 18 点
5　各 6 点　合計 18 点
6　各 6 点　合計 18 点

２０２７年度入試向け　プレテスト第１回

解説

2027年度入試向け　桃山学院中学校　プレテスト第1回　　算数　解説

1 計算問題

(1)　$43+(29\times7-5)\div11=43+(203-5)\div11=43+198\div11=43+18=61$

(2)　$2.1\div1.25-1.6\div1.25=(2.1-1.6)\div1.25=0.5\div1.25=0.4$

(3)　$\left(\frac{1}{2}+\frac{2}{3}\times\square\right)\div\frac{3}{4}=1\frac{2}{3}-\frac{7}{9}=\frac{15}{9}-\frac{7}{9}=\frac{8}{9}$　$\frac{1}{2}+\frac{2}{3}\times\square=\frac{8}{9}\times\frac{3}{4}=\frac{2}{3}$

$\frac{2}{3}\times\square=\frac{2}{3}-\frac{1}{2}=\frac{1}{6}$　$\square=\frac{1}{6}\div\frac{2}{3}=\frac{1}{4}$

(4)　$(2.3\text{L}+40\text{dL})\div90\text{mL}=(2300\text{mL}+4000\text{mL})\div90\text{mL}=6300\text{mL}\div90\text{mL}=70$

2 小問集合

(1)　一の位の数が0～9の10個の整数ごとに4個の奇数が並び，1～123までに，$123\div10=12$あまり3より，12回くり返した後に121と123の2個が並ぶから，$4\times12+2=50$(番目)

(2)　9.9kg＝9900gは，20個すべてがバスケットボールのときの重さ，$600\times20=12000$(g)より，$12000-9900=2100$(g)軽く，バスケットボール1個をハンドボール1個に入れかえるごとに，$600-450=150$(g)軽くなるから，ハンドボールは，$2100\div150=14$(個)

(3)　$3+24=27$(人)が受験者数の，$1-0.55-0.4=0.05$にあたる。受験者数は，$27\div0.05=540$(人)

(4)　次の表の9通りある。

100円玉(枚)	2	1			0				
50円玉(枚)	0	2	1	0	4	3	2	1	0
10円玉(枚)	0	0	5	10	0	5	10	15	20

(5)　もとの分数の分母を○，分子を△とすると，$\frac{\triangle}{\bigcirc}\div\frac{9}{35}=\frac{\triangle}{\bigcirc}\times\frac{35}{9}$と$\frac{\triangle}{\bigcirc}\div\frac{6}{25}=\frac{\triangle}{\bigcirc}\times\frac{25}{6}$

分母の○は35をわっても25をわってもわり切れる数のうちもっとも大きい5，分子の△は9でわっても6でわってもわり切れる数のうちもっとも小さい18

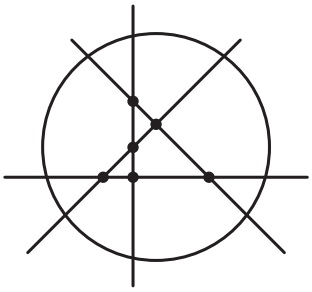
(6)　三角形アの高さは，$90\times2\div15=12$(cm)でイの台形と等しい。イの台形の下底は，$4+12=16$(cm)なので，面積は，$(4+16)\times12\div2=120$(cm^2)

3 交かんのルールの問題

(1)　1300円で13個買えて13枚のシールで，$13\div5=2$あまり3より2個交かんできる。交かんした商品2個のシール2枚とあまりの3枚のシールの合計5枚でもう1個の商品と交かんできるから，$13+2+1=16$(個)

(2)　はじめに5個を買って5個を手に入れると，その後は1個が無料でもらえ4個買って5個を手に入れることをくり返す。$(51-5)\div5=9$あまり1より1個を無料でもらうことを9回くり返し最後の51個目の1個も無料でもらえるから，買うのは，$51-(9+1)=41$(個)で4100円

4 図形の規則性



⑴ 3本引いたときの図に，できるだけ多い部分に分かれるように4本目の直線をかき加えると，例えば右の図のようになる。分かれた部分は4つ増え，11となる。

⑵ 3本のときの図に4本目の直線をかき加えるとき，もとにあった3本の直線と3つの点で交わり，4本目の直線が3つの点で分けられた4か所に1つずつ分かれた部分が増える。さらに5本目をかき加えると4個の点と交わり，分かれた部分が5増える。表にまとめると次のようになる。

直線(本)	1	2	3	4	5	
分かれた部分	2	4	7	11	16	

⑶ ⑵に続いて，分かれる部分は直線が6本のとき，16＋6＝22，7本のとき，22＋7＝29，8本のとき，29＋8＝37，9本のとき，37＋9＝46で，10本のとき，46＋10＝56となり50以上になる。

5 速さの文章題

⑴ 歩いて行くときは自転車で行くときよりも，7時50分－7時35分＝15分早く家を出て，5－2＝3(分)おそく駅に着いたから，15＋3＝18(分)多くかかっている。

⑵ 自転車で駅まで行くのにかかる時間で歩く道のりは家から駅までの道のりより，
80×18＝1440(m)少ない。
自転車でかかる時間は，1440÷(200－80)＝12(分)だから，家から駅までの道のりは，
200×12＝2400(m)

⑶ 自転車で午前7時50分に家を出てから12分後の午前8時2分が発車時刻の5分前だから，発車時刻は午前8時7分。

6 正三角形の長さと面積

⑴ 正三角形ABCの周りの長さは，15×3＝45(cm)　正三角形イ，ウ，エの2辺の長さの合計が，45－(6＋7＋4)＝28(cm)　正三角形イ，ウ，エの1辺の長さの合計は，28÷2＝14(cm)

⑵ 正三角形ウ，エの1辺の長さの合計は，15－7＝8(cm)　正三角形イの1辺の長さは，
14－8＝6(cm)

⑶ 正三角形ウの1辺の長さは，15－6×2＝3(cm)　正三角形エの1辺の長さは，8－3＝5(cm)
正三角形アの面積をもとにしたときの面積は，正三角形ABCが，15×15＝225(倍)，
正三角形イが，6×6＝36(倍)，正三角形ウが，3×3＝9(倍)，正三角形エが，5×5＝25(倍)
六角形オは，225－(36＋9＋25)＝155(倍)

2027年度入試向け　桃山学院中学校　プレテスト第1回　　国語　解説

一　説明的文章

問1　内容理解の問題です。「いまの自分」とは、「周囲の人たちから受けてきた影響や、ときには反発によって形成されてきたもの」であり、このことを端的にまとめた1ページ上段の10行目にある「周囲の環境」があてはまります。

問2　内容理解の問題です。問題文に「『型』を自覚すること以外」とあることをふまえ、型から自由になるために大切なことを読み取ります。1ページ下段の――⑤の直前の段落に「自由になるにはまず『型』を身につけることが大切」と前置きしたうえで、「それと同じくらい重要なことは、自分の想像を超えたものとの出会いを恐れず、新鮮な感覚で受け止めること」とあります。この内容にあてはまる選択肢は、**え**です。

問3　内容理解の問題です。［A］の前後の内容に着目します。直前には、「まわりの友だちがあまり聴いていないような音楽を進んで聴く」とあり、直後の段落には、「人は何らかの理由でそうした『背伸び』」「わからないものに手を伸ばそうとする」とあります。これらの内容にあてはまる選択肢は、**え**です。

問4　表現理解の問題です。ここでの「背伸び」とは、「まわりの友だちがあまり聴いていないような音楽を進んで聴く」ように周囲の人間とは異なる「自分が知らない、わからないもの」にあえて手を伸ばすという意味で使われています。これをふまえて、ここより前の本文中から同義の言葉を探すと、第1段落に「ひそかな反発として、別のものを好きになる」とあり、この部分の「ひそかな反発」があてはまります。

問5　内容理解の問題です。――④の直後の内容に着目しましょう。「自分がどういう『型』にはまっているかを自覚すること」を「それはいま自分が身をおいている世界からちょっと抜け出て、別の世界に足を踏み入れてみること」と言い換えています。さらに、「ユクスキュルという生物学者」の考えを引用し、「違う世界」とは、その世界を生きる生物の「備えている感覚」の違いであると述べています。これらの内容を整理すると、「自分が身をおいている世界（感覚）からちょっと抜け出て、別の世界（感覚）に足を踏み入れてみること」と、「自分がどういう『型』にはまっているかを自覚すること」が同義ということになります。この内容にあてはまる選択肢は、**う**です。

あ「それまでの芸術へのこだわりを捨てて、新しい世界に移る」という部分が、「芸術へのこだわり」に限定して説明しているので誤りです。

い「自分とは異なる世界や感覚を学び身につける」という部分が、「感覚を学び身につける」とまでは本文で述べられておらず、あいません。

え「知らない場所について想像する」という部分が、「知らない場所」のことを「想像する」とは本文で述べられておらず、あいません。

問6　内容理解の問題です。――⑤よりあと、筆者が現代アートにふれた体験について述べている部分に着目しましょう。「マンガやアニメの表現技法」を使った作品、「ギターを掻き鳴らしたような轟音が響いてくる」作品によって、「自分が『美術館』という言葉からイメージし

ていた」ものが崩壊し、「現代美術の懐の広さに自由を感じ、大きな感銘を受け」たとあります。この内容にあてはまる選択肢は、**あ**です。

問7　内容理解の問題です。筆者が「『美術館』という言葉からイメージしていた」ことを読み取りましょう。――⑧の直前の段落に着目すると、「美術館＝絵画や彫刻が整然と並べられている空間」、「美術館という『真面目そうな』空間」といった筆者のイメージを読み取ることができます。これらの内容からは、美術館に対する静かで落ち着いた空間といった思い込みがあることがわかります。このような文脈から、［ B ］には、そのような静かで落ち着いた空間で展示されるのにふさわしい美術作品という意味で「お行儀のよい」があてはまります。

問8　言葉の意味をとらえる問題です。それぞれの言葉の本文中での使われ方に着目しましょう。⑥「縁遠い」とは、ここでは「関係が薄い」という意味なので、**え**が正解です。⑦「ふんだん」とは、ここでは「たくさん」という意味なので、**い**が正解です。

問9　内容理解の問題です。「こういった」という指示語がさしている内容に着目し、「出会い」が筆者にもたらしたものを読み取りましょう。「こういった出会い」とは、型破りな「現代美術」との出会いのことを指し、それによる筆者の変化は、――⑧をふくむ段落に書かれています。「現代美術」との出会いによって、「大学に入った当初は文学や美術の授業ばかりを履修していい」たが、「もともとフランス語やドイツ語にも興味があったので語学の授業にも真面目に出席するようにな」ったとあり、その後、「哲学にも興味をもちはじめいまに至る」とあります。この変化を正しくとらえた選択肢は、**う**です。

問10　内容を理解し、設問の指示に従って記述する問題です。――⑨をふくむ段落全体の内容に着目しましょう。まず、筆者は哲学も美術も「真面目にやろうとすれば」「基礎的な修練はやはり必要です」と述べています。そして、「地道な修業を経て『型』を身につけると、そのうちあっと驚くようなことができるようになります」と続けています。これらの内容をふまえて、さらに筆者は、哲学や美術で求められていると思っていることにもふれているので、この内容を正しくとらえましょう。「哲学や美術においては、身につけた『型』を守りつつ破る、あるいはずらすことこそが醍醐味であり求められていること」と、最後の一文にはあります。これらを用いてまとめましょう。

【なにを】地道な修業を経て身につけた「型」を

【どうすることか】守りつつ、破り、ずらす

【指定語句】修業

例：※**「哲学」や「美術」では、地道な修業を経て身につけた「型」を守りつつ、破り、ずらすことが求められている。**

問11　本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の選択肢を短く分け、それぞれの内容を本文の内容と照らし合わせて正誤を判断するとよいでしょう。

①は、本文の内容にあっているので「**あ**」です。

「人は家族や友だちの影響を受けて何かを好きになることや、あえて別の何かを好きになることもあり、」

→この部分は、第一段落の「家族や友だちの影響で何かを好きになることもあれば、それに対するひそかな反発として、別のものを好きになることだってある」にあてはまりま

す。

「日常生活で受ける人からの影響は単純なものではない。」

→この部分は、第一段落の「『影響』というのはそれほど単純なものではありません」にあてはまります。

②は、本文の内容にあっていないので「**い**」です。

「中学生のときの筆者が、様々な音楽に触れた経験を経て未知の音楽を求めたのは、」

→この部分は、第四段落の「わたしがそうした未知の音楽に手を出してみようと思ったのは」にあっています。また、第四段落の後半で「わたし」が中学生であることもわかります。

「狭い枠のなかに収まっていることを自覚して自分を変えようとしたからである。」

→この部分は、第四段落の「中学生のころのわたしがそれ（狭い枠に収まっているような感覚）を自覚していたわけではありません」とあるので、あっていません。

③は、本文の内容にあっているので「**あ**」です。

「生物学者のユクスキュルは、人間や動物、昆虫などがそれぞれ異なる世界を生きていると考えており、」

→この部分は、第五段落の「これ（環世界という言葉）は私たち人間も、動物も、昆虫も、それぞれ違う世界を生きているという考えかたです」にあっています。

「『環世界』という言葉を使っている。」

→この部分は、第五段落の「ユクスキュルという生物学者」が「『環世界（Umwelt）』という言葉を使っている」にあっています。

④は、本文の内容にあっていないので「**い**」です。

「美術教育に熱心な両親のもとで美術作品に囲まれて育った筆者は、幼いころから美術に対する強い興味を持っており、」

→この部分は、第八段落の「生まれ育ったところには美術館などもありませんでしたし、両親が美術教育に熱心だったわけでもありません」にあっていません。

「美術を好きになるのは時間の問題だった。」

→この部分は、第八段落の「もともと、わたしは絵画や彫刻のような美術作品に興味のある人間ではまったくありませんでした」にあっていません。

二 文学的文章

問１　言葉の意味をとらえる問題です。「苦肉の策」とは、「追い詰められた状況を解決するためにとったやむを得ない方法」という意味です。したがって、**う**が正解です。

問２　登場人物の心情理解の問題です。――②の直後に「お前のやるべきことは、家事じゃなくて宿題だ」「中学一年生の子どもが、四十前のおじさんの夕食を用意するなんて、健全じゃない」とあります。この部分から、哲郎は、龍之介には哲郎の食事の準備よりも、自分のことを優先するような中学生らしい生活を送ってほしいと願っていることがわかります。この内容にあてはまる選択肢は、**い**が正解です。

問３　内容理解の問題です。「腹の底が温かくなる」のここでの意味を正しくとらえましょう。

――③の前後の内容に着目すると、龍之介の変化を読み取ることができます。哲郎のもとにやってきた「当初の小学四年生の龍之介は、一日中ほとんど口をきかず、部屋の中には重い沈黙が立ちこめていた」「気が付けば一人で空を見つめているような少年」でしたが、今では哲郎に対して「遠慮のない反応」をするようになっています。このような龍之介の変化によって哲郎は「腹の底が温かくな」っており、そのときの感情は喜びであることを読み取りましょう。この内容にあてはまる選択肢は、**あ**が正解です。**う**は、「本当の親子になれたと確信し」という部分を本文から読み取ることはできず、誤りです。

問４　内容理解の問題です。――④の直前の内容に着目しましょう。問３にもあるように、幼いころの龍之介は暗く沈んでいました。その龍之介が、哲郎に「遠慮のない顔」を見せるまでになったことを、前向きにとらえています。そのことは、「保護者に向かって『マチ先生』と呼びかけることが健全であるかどうかは議論の余地はある」けれども「かつての沈鬱な空気を思えば些末な問題であろう」とあることからも読み取れます。この内容にあてはまる選択肢は、**え**が正解です。

問５　内容理解の問題です。脱文中に「岩波文庫」とあり、この本が「エチカ」であることに着目しましょう。**【あ】**と**【え】**は前後の文脈からあてはまらないことがわかるので、**【い】**と**【う】**のどちらに入るかを考えましょう。**【い】**に戻した場合、「上巻よりも薄い下巻には、鉛筆やボールペンでやみくもに書き込みが入っている。」「だから哲郎は岩波文庫を食卓に置いて、話を続ける。」となり、文脈上のつながりが弱いです。一方、**【う】**に戻した場合、「雑談めいた軽い口調に、しかし龍之介はまっすぐな目を向けている。」「だから哲郎は……話を続ける。」となり、龍之介がしっかり話を聞いているので、哲郎も「エチカ」について話を続けたという文脈が成立します。したがって、**【う】**が正解です。

問６　内容理解の問題です。――⑤のあとに、哲郎は『エチカ』の読み方について、龍之介に説明しています。「途中で投げ出さず、忍耐強く取り組んで、最後の一行まで辿っていく」ことで、本の内容がある日突然頭の中に戻ってきて、「色々なことを教えてくれる」とあります。
この部分が、哲郎が「最後まで読んでみることだ」と述べる理由にあたります。

問７　登場人物の心情理解の問題です。まず、――⑥の前後に着目しましょう。「まあ、色んな本にチャレンジすることはいい。……実際に出会った人の言葉なんだから」という哲郎の言葉に、龍之介はうなずいていることがわかります。また、「現実に多くの人と向き合い……思うのである。」と人生経験を積んだ伯父の言葉を受け止め、「少しでも伯父の見ている世界に近づきたい。」という龍之介の思いが描かれています。この内容にあてはまる選択肢は、**え**です。

問８　登場人物の心情理解の問題です。――⑦のあとに、「こういうところが伯父らしいと、龍之介はおかしみをこらえながら応じる」とあるので、どうしておかしみを感じているのかを考えます。問７にもあるように、医師として多くの人と向き合い、すべてを見通しているように見える哲郎が、龍之介の担当する楽器をわかっていないという人間味のある一面を見て、おかしさや親しみを感じています。この一面は、本文８ページ下段９行目から始まる「遠くに目を向けている分だけ……まったくいい加減なものなのだ」という部分からも読み取れます。したがって、**あ**が正解です。

問 9　登場人物の心情理解の問題です。

あ　「龍之介をひきとったことで大学病院を辞めたことを龍之介には気にしてほしくないという気持ち。」

→龍之介の「でも僕のせいで大学病院を辞めないといけなくなったじゃないですか。」という発言を途中でさえぎって、哲郎が発言したことから、大学病院を辞めたことを龍之介に気にしてほしくない気持ちが読み取れます。したがって、本文の内容にあっています。

い　「中学生でありながら哲郎の状況を案じてくれる龍之介の優しさをうれしく思う気持ち。」

→龍之介の発言を受けて、「呆れ顔に柔らかな笑み」を浮かべていることから、龍之介の中学生らしくない気遣いに呆れながらも、うれしく思う気持ちが読み取れます。したがって、本文の内容にあっています。

う　「大学病院に残りたいと思っていた自分の本心を子どもに見ぬかれていたことにいら立つ気持ち。」

→選択肢に「大学病院に残りたいと思っていた自分の本心」、「子どもに見ぬかれていたことにいら立つ気持ち」とありますが、どちらも本文にそのような描写はありません。

え　「伯父のお金や肩書きは気にせずに、中学生らしく素直に自分の望みを伝えてほしいという気持ち。」

→哲郎の「人生の面白さってものは……欲しい物を欲しいとちゃんと口に出して言うことだ」という発言と一致します。

問 10　登場人物の人物像理解の問題です。本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。**あ～え**の選択肢を短く分け、それぞれの内容を本文の内容と照らし合わせて正誤を判断するとよいでしょう。

あ　「多忙な中、仕事よりも甥のことを最優先に考えた今の生活に満足しており、」

→大学病院から緊急の処置を頼まれ、本文 8 ページ下段 13 行目「夜の突然の呼び出しに慌てて飛び出して行く」様子から、仕事にも懸命に取り組んでいることがわかるので、あっていません。

「何不自由のない生活をさせて甘やかし、惜しみない愛情を注ぐ心の広い人物。」

→龍之介は哲郎に甘やかされている様子は読み取ることができないので、あっていません。

い　「仕事上は経験豊富で、本質を見通す目を持っているが、」

→本文 8 ページ下段 5 行目にあるように「現実に多くの人と向き合い、そして命を見送ってきた」哲郎は、本文 8 ページ下段 2 ～ 3 行目で「直接経験したことや、実際に出会った人の言葉」が大事だと龍之介に伝えており、物事の本質を見る目があることがわかります。したがって、あっています。

「伯父への感謝の気持ちから積極的に家事をしたり我慢をしたりする甥に日々甘えている子どもっぽい人物。」

→気を遣う龍之介に対し、哲郎は本文 6 ページ上段最終行から始まる部分に「やるべきことは、家事じゃなくて宿題だ」、本文 9 ページ下段 8 ～ 9 行目に「欲しい物を欲しいとちゃ

んと口に出して言うことだ」とそれぞれ発言しており、龍之介に日々甘えていて子どもっぽいわけではないので、あっていません。

う　「中学生ながら分別をわきまえた龍之介に対しても、」

→――②にあるように哲郎の分まで「ご飯の支度」をしたり、本文9ページ上段7行目で「フルートってすごく高いですよ」と欲しいものを欲しいと言わなかったりする様子や、哲郎が自分のせいで大学病院を辞めたのだと負い目を感じている様子から、気遣いの深さが読み取れるため、あっています。

「親代わりとして甥が立派な大人になるように、日々厳しく教え導こうと努力する、正義感の強い人物。」

→本文9ページ下段7～9行目で「お前がやるべきことは……ちゃんと口に出して言うことだ」と言っていることからわかるように、龍之介に対し、気を遣ってほしくないと思っており、厳しくしている様子は読み取れないので、あっていません。

え　「医者の仕事で忙しいが、賢く素直な甥との暮らしに喜びを感じており、」

→緊急の処置や、本文8ページ下段13行目で「夜の突然の呼び出し」とあるように医師として忙しい生活を送りつつ、本文9ページ上段24～25行目の「私はお前が我が家に来てくれたことを、本当に幸せなことだと思っているんだよ」という哲郎の発言から、大人びていながらも本文7ページ上段1～2行目にあるように「遠慮のない顔を見せてくれる」ようになった龍之介との暮らしに喜びを感じている様子が読み取れます。

「保護者として龍之介を見守り導こうとする責任感とユーモアを持ち合わせた人物。」

→本文9ページ上段22～25行目「いいかい、龍之介。お前は私の家族だ。……幸せなことだと思っているんだよ」、本文8ページ上段15行目から始まる発言の「本当に複雑な物事を理解するには……ずいぶんあとのことだよ」と龍之介に諭す様子に加え、本文8ページ上段23～24行目「哲郎の手がこそこそと銘菓に伸びていた」、本文9ページ下段14行目「無意味に傲然たる物言いに、龍之介は小さく吹き出した」というようにユーモアを持った一面もあるので、あっています。

問11　内容理解の問題です。［X］は、龍之介が来てくれたことで哲郎がどのように感じているかを探します。本文9ページ上段で、気を遣う龍之介と哲郎の会話の場面があり、そこで哲郎が「私はお前が我が家に来てくれたことを、本当に幸せなことだと思っているんだよ」と発言していることから、**い**があてはまります。［Y］は、空欄の前に「龍之介の視点で書かれた部分に着目する」とあるので、本文中から探すと、――⑥のあとに描かれています。「遠くに目を向けている分だけ、足下が見えていない」一方で、「夜の突然の呼び出し」に飛び出して行く姿や「祈るように目を閉じて動かない」姿を見て、そんな哲郎の見ている世界に近づきたいと龍之介は思っているので、**う**があてはまります。［Z］は、行動の描写から登場人物の心情を読み取ります。本文9ページ下段で、哲郎の傲然たる物言いに「龍之介は小さく吹き出した」とありますが、そのあとに二人は「声を合わせて」笑いあっていることから、気持ちが通じ合ったことを表しています。したがって、**え**があてはまります。

三 漢字・語句

問１　漢字の読み書きの問題です。　①「改善」は「問題点を見直し、より良い状態に改めること」という意味です。　②「許可」は「要望に応じて、してもよいと認めること」という意味です。　③「絶」の音読みは「ゼツ」で、「絶対」「根絶」などの熟語に用います。　④「世帯」は「住居と生計をともにする人の集まり」という意味です。　⑤「候補」は「選択（せんたく）や選出の対象として挙げられている人や物事」のことです。　⑥「構」の音読みは「コウ」で、「構成」「構造」などの熟語に用います。

問２　対義語の問題です。①「子孫⇔先祖」という対義語です。　②「全体⇔部分」という対義語です。　③「差別⇔平等」という対義語です。　④「生産⇔消費」という対義語です。

四 語句・言葉のきまり

問１　慣用句の知識に関する問題です。日常生活の中で見たり聞いたりした慣用句があったら、辞書などで意味を覚えましょう。　①は、「足もとを見る」で、「人の弱いところを見ぬいて付け入る」という意味です。　②は、「目も当てられない」で、「あまりにひどく見ていられない」という意味です。

問２　四字熟語の知識の問題です。　1は「多くの人が同じことを言うこと」という意味の言葉で「異□同音」と書きます。　2は「状況（じょうきょう）にあわせて、適切な判断や行動をとること」という意味です。3は「名前や評判だけが立派で、実力が伴（ともな）っていないこと」という意味の言葉です。4は「晴れた日は畑を耕し、雨の日は家で読書をすること。自分の好きなように暮らす生き方のこと」という意味の言葉で「晴耕雨読」と書きます。5は「どこにも欠点や不足がなく、すべてにおいて申し分ないこと」という意味です。**お**が正解です。

問３　接続詞を選ぶ問題です。①は、「急用があった」「体調をくずした」という二つの可能性を示しているので、**い**「あるいは」があてはまります。②は、［　　］の前の文を受けて、［　　］のあとの「今日は苗（なえ）を植える」につながっているので、**え**「そこで」があてはまります。③は、［　　］の前に「晴天が続くことが多い」とありますが、［　　］のあとに「今年は雨続きだ」と反対のことを述べているので、**お**「けれども」があてはまります。④は、［　　］の前の文の理由を［　　］のあとで述べているので、**う**「なぜなら」があてはまります。

問４　日本語全般（ぜんぱん）に関する問題です。

①　「もしかしたら」につながる形は「かもしれない」であり、この文では「合格するかもしれない」が正確な言い方です。したがって、日本語としてまちがっています。

②　「夢は」と「外国で生活することです」という主述の関係は、正しい日本語です。

③　「うそも方便」とは「ときにはうそをつくことも、物事をうまく進めるためには必要になるということ」という意味であり、この文は正しい日本語です。

④　「たとえ」につながる形は「ても（でも）」であり、この文では「負けたとしても」が正確な言い方です。したがって、日本語としてまちがっています。

⑤　「瓜二（うり）つ」とは「顔かたちがそっくりであること」という意味ですが、この文では「似ていない」とあるので、日本語としてまちがっています。